

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

リョービ株式会社 広島東工場

(2) 事業所の所在地

広島県府中市鶴飼町800-2

(3) 業種

2434 アルミニウム・同合金ダイカスト製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とする。

3 計画の基本的な方向

■リョービグループ環境方針

リョービグループは、経営環境を取り巻く様々なリスクの回避・低減を図るとともに、事業活動から生じる環境負荷を低減するための取り組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 経営環境の変化に伴うリスクを特定し対応を図ります。
2. 製品・商品のライフサイクルの各段階における環境負荷の低減と環境汚染の予防に取り組みます。
 - (1) CO2排出量削減
 - (2) 省エネルギー・省資源
 - (3) 産業廃棄物の削減・再資源化
 - (4) 環境汚染の防止
 - (5) 調達品の環境負荷低減
 - (6) 低環境負荷製品・サービスの提案・拡販
3. 環境に関する法令・条例・協定および利害関係者からの要求事項を遵守します。
4. 全構成員に対し、環境に関する教育や啓蒙活動を通じて、環境改善に取り組む意識の向上を図ります。
5. 上記を達成するために、環境目標を設定し、施策を実行して、その結果に基づく見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
6. 環境保全活動を通じて、地域社会に貢献します。
7. この環境方針は、全構成員に周知させるとともに、社外にも公開します。

■計画に含む工場について

広島東工場内には、当社グループの「リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社（以下、RMGT）」が存在するが、地縁の一体性を持っているため、省エネ法15条関係定期報告書と同様に、RMGTを含めた計画とする。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和3（2021）年度
二酸化炭素	24,027	21,402

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス （ HFC PFC SF6 NF3 ）		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25(2013)年度)	削減目標		目標年度 (令和12(2030)年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	24,027	20.0	4,800	19,227
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計	24,027	20.0	4,800	19,227
温室効果ガス みなし排出量		-		19,227
目標設定の考え方	政府目標と同じ目標を設定 電気は中国電力(株)の基礎排出係数を使用			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 () 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k 1)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	燃料使用量の削減	A重油・LPGの使用による CO2排出量を33%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ溶解炉の燃料転換（A重油⇒LNG） ・アルミ溶解炉の更新 ・電気式アルミ溶解保持炉の導入 ・ガス吸収式冷温水機をパッケージ エアコンに変更
2	電気使用量の削減	電気使用による CO2排出量を17%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳造機ポンプのサーボモーター化 ・鋳造機アルミ保持炉の放熱対策 ・コンプレッサーのエア漏れ対策 ・屋根の断熱対策（シート、塗装） ・低炭素電力の購入 ・太陽光発電設備の設置
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

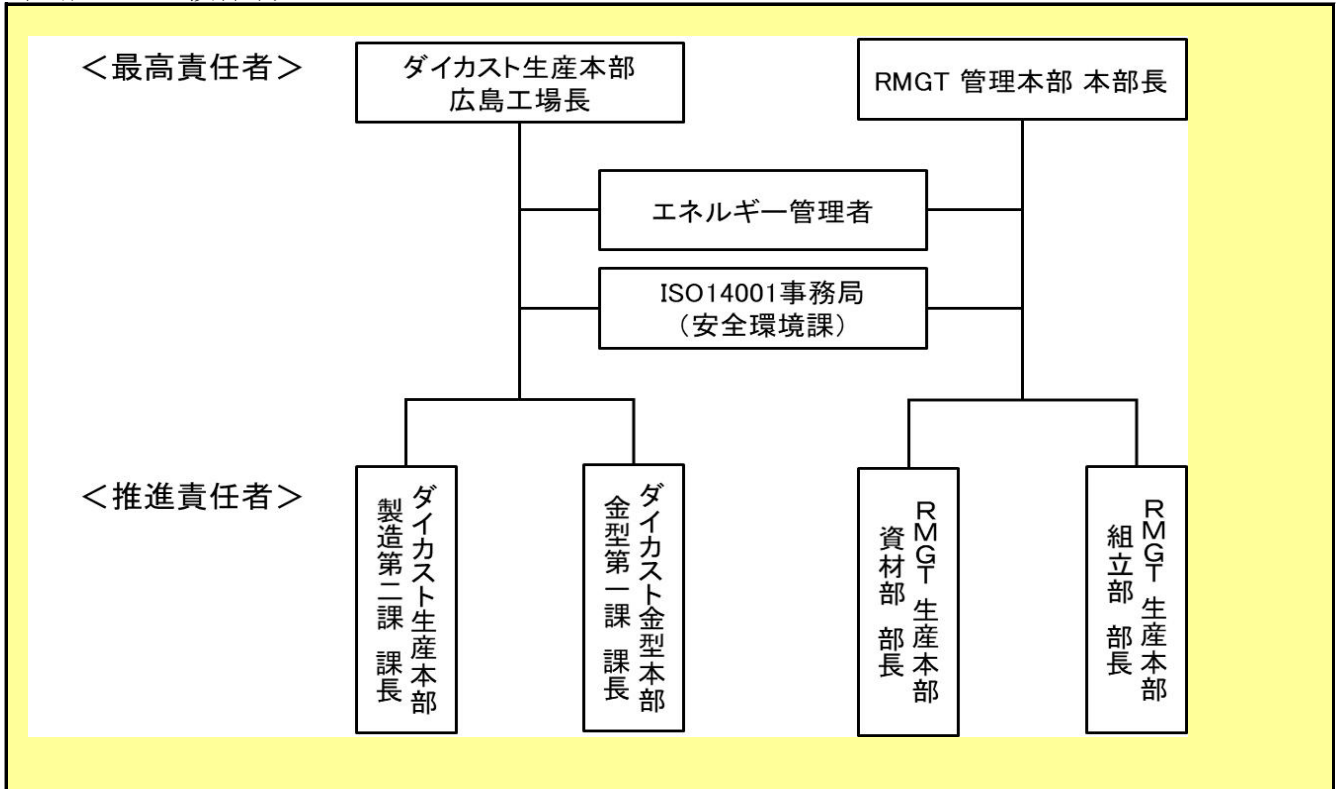
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

推進責任者を中心にCO2削減計画の取組み状況の把握・点検および問題点の対策を行い、四半期毎に開催しているISO14001マネジメントレビューの中で、CO2削減目標の達成状況、施策の進捗状況の確認や課題の検討・対策を行っている。

<CO2削減目標>

- ・2050年までにカーボンニュートラルを達成する。
- ・2030年までにCO2排出量を2013年度比で34%以上削減する。
国内は46%以上、海外は25%以上削減。
(国内、海外ともに2018年度比47.4%削減)

(3) 計画書等の公表

CO2削減計画書は公表していないが、CO2削減目標およびCO2排出量の排出実績・推移を当社ホームページに掲載している。